

## 「新・第5次荒尾市総合計画（素案）」に関するご意見・ご提案の内容及び対応方針

### 【人口ビジョン（素案）】

No.	ご意見・ご提案の内容(一部要約)		ご意見に対する市の考え方
1	P.18	<p>「(2) 生産・所得面 (GDP) に与える影響」に関するご意見</p> <p>GDP＝雇用者報酬＋営業余剰＋減価償却費＋間接税等で計算されているが、GDP（生産）控除要素である補助金の扱いを考慮すべきと考える。また、文言として、減価償却費ではなく「固定資本減耗」が適当だと考える。</p>	<p>補助金の扱いについては、「間接税等」という表現に含ませていましたが、ご意見のとおり「間接税－補助金」という表現に改めます。また、「減価償却費」については、ご理解いただきやすいよう、会計用語として浸透しているものを使用していましたが、ご意見のとおり「固定資本減耗」に改めます。</p>
2	P.19	<p>「(3) 支出面（経常収支）への影響」に関するご意見</p> <p>図表 23 における経常収支の計算根拠の意味が不明である。可処分所得として経常収入に記載されているが、一般的な可処分所得の考え方を地域の経常収支として計上することは、根拠に疑問がある。GDP の計算上、雇用者報酬が計算対象とされているが、可処分所得は、給与（個人所得）から支払義務（税金や社会保険料等）を差し引いた手取り収入であるのではないか。</p>	<p>「可処分所得」という表現については、個人家計に例えるとご意見のとおり「手取り収入」になりますが、地域経済を考える上での可処分所得は、その地域に入ってきたお金の総額を指します。ここから社会保障費等を含む最終需要を引き、経常収支を算出しています。なお、熊本県が作成しています「平成 24 年度県民経済計算報告書」中の「Ⅳ熊本県経済の循環」でも、この考え方が示されています。</p>

【あらお創生総合戦略（素案）】

No.	ご意見・ご提案の内容(一部要約)		ご意見に対する市の考え方
1	P.11 P.12	<p><b>重点戦略と具体的な施策の関係について</b></p> <p>重点戦略「子どもと楽しむまち」は、新・第5次荒尾市総合計画として重点的に取り組む政策の中から、まち・ひと・しごと創生の観点から政策横断的に設定し、経営資源も重点投資を図り、着実に推進することとされている。</p> <p>この重点戦略と具体的施策との関係について、「重点戦略に関連する具体的な施策を設定する」と記述されているが、より関係を明確にするために、「重点戦略を実現する具体的な施策を設定する」と記述すべきではないかと考える。</p> <p>それに伴い、P.12の図においても、標題を【重点戦略を実現する21の具体的な施策】に変え、重点戦略の枠囲みから下に出る2つの矢印の中に、「実現」と記述すべきではないかと考える。</p>	<p>重点戦略は、本市の地域特性や強みを活かし、限られた経営資源で効果を上げることや、対外的に本市のブランドイメージを確立・発信していくことを目的としています。</p> <p>ご意見のとおり、重点戦略における具体的な施策は、重点戦略の実現に直接的に繋がると見込まれる施策を設定していますので、「重点戦略を実現するための具体的な施策を設定する。」に改めます。</p> <p>また、図の標題については、【重点戦略を実現するための21の具体的な施策】に変更するとともに、下に出ている矢印を上向きに変更します。</p>
2	P.13 ～ P.38	<p><b>重点戦略の明確化について</b></p> <p>重点戦略を実現する21本の具体的な施策であることを明確にするために、「<u>重点戦略</u>」と記述してはどうかと考える。</p>	<p>ご意見のとおり記述することで重点戦略が分かりやすくなると考えますので、「<u>重点戦略</u>」と追記します。</p>

No.	ご意見・ご提案の内容(一部要約)		ご意見に対する市の考え方
3	P.14	<p>「(ウ) 企業誘致の推進」について</p> <p>KPIの「誘致企業による就業者数 50人(5か年の累計)」は、年平均 10 人であり、少ないのではないかと思われる。</p>	<p>荒尾産業団地等の分譲区画が少なくなっている中、企業誘致は中小企業を中心に進めています。就業者数につきましては、製造業とメガソーラー発電では開きが大きいことから、これまでの実績も踏まえ年間1社とそれに伴う就業者数 10 人を目標としたいと考えています。</p>
4	P.15	<p>「(エ) 観光地域づくりの推進」に関するご意見</p> <p>着地型広域観光推進の受け皿として、マーケティングや大牟田市等と連携した観光商品の開発、人材確保など観光を基軸とした仕事づくりの司令塔となる組織（日本版DMO/Destination Management Organization）づくりを関係市町と連携して検討する旨を記述してはどうかと考える。</p>	<p>今後、観光まちづくりを推進する上で、既存の観光協会や商工会議所などの組織をはじめとする関係団体と連携し、マーケティングや地域マネジメントを総合的に行うプラットフォームを設立することが必要だと感じています。また、共に世界遺産構成資産をもち、経済的にも深い関連性のある大牟田市をはじめ、近隣自治体とも連携して推進していくことが重要だと考えています。現在、広域的なプラットフォームの設立について模索していますので、検討する旨を追記します。</p>
5		<p>「(エ) 観光地域づくりの推進」に関するご意見</p> <p>観光は地域振興の担い手で、郷土の光を観るといふことである。荒尾市は以前から観光都市を標榜しているが、グリーンランド周辺のみが潤って、荒尾駅から大島、四ツ山方面の旧市街地に全く活気がない。本来はここに荒尾市の伝統工芸や特産品が存在していなければ、観光都市とは言えない。現代はストレス社会で、人々は癒しを求め、短時間でも日常を離れ、多様なライフスタイルを経験したいというニーズや、</p>	<p>荒尾駅周辺の活性化については、荒尾競馬場跡地の活用などを通じて、定住・交流人口の増加や賑わいの創出を図ることを検討しています。</p> <p>また、小代焼についても、各窯元と連携し、陶芸体験も含めたPRや物産展への出品などを継続していくこととしています。これらの伝統的工芸品を含む地域資源を活かしながら、引き続き観光振興を推進していきます。</p>

	<p>見たり聞いたりから実際に体験、体感したいという願望があると思う。陶芸やガラス工房、ガーデニングや料理づくり等々、美や芸術は人気があり、強いと思う。</p> <p>万田坑や荒尾干潟、宮崎兄弟の生家も素晴らしい荒尾市の財産だと思いますが、観光客がリピーターとして何度も訪れてくれるかは疑問である。日本は焼物大国で、荒尾市には国の伝統工芸品である小代焼があるが、専門家からの評価は高いものの焼物ファンの間で知られていない現状がある。これらに加え、女性をターゲットにしたガラス工芸や染色、漆器、寄木細工などの展示、体験販売など、様々なイベントを恒例化していくことが必要だと思う。イベントのあり方も、タイトルの工夫やリピーターづくりの仕掛け、マスコミへのPRなどで集客を図る必要がある。</p> <p>また、今後より多くの観光客を引き込むため、有明海沿岸道路を活かし、柳川市方面からの観光動線の中継基地として、荒尾市の拠点性を高めていくことだと思う。一つの地域でできることは限られているため、他地域との連携を強化し、それぞれの地域の独自性を活かし、地域の人たち同士の交流、観光客との交流、後継者の育成なども図っていかねばいいと考える。</p> <p>人と人のふれあい、助け合いは地域の結束力、自立性を高め、市民が主体となって取り組む意識を育むことがまちづくりへと繋がっていくものと確信する。一本筋の通ったテーマの下、荒尾市の観光のポテンシャルを活かしてもらおうようお願いしたい。</p>	
--	---	--

No.	ご意見・ご提案の内容(一部要約)		ご意見に対する市の考え方
6	P.16	<p>「(3) 人材育成及び雇用対策」に関するご意見</p> <p>経済的・ビジネス的志向の高度な人材育成が必要である。地域産業の競争力の強化に向けて、経済状況やビジネス環境、並びに産業構造などの知識・見識をもつ多くの人材を創出することが荒尾市にとっては重要課題と言える。</p>	<p>ご意見のとおり、経済的・ビジネス的志向の人材育成は必要であると認識していますので、近隣の大学などの研究機関等と連携を密にし、人材育成を図りたいと考えています。</p>
7	P.19	<p>「(1) 本市への移住の促進」に関するご意見に関するご意見</p> <p>「(ア) 移住希望者への情報提供の強化」と「(イ) 二地域居住や住み替えの支援」は、移住者の実現という業績評価面での切り分けが困難ではないかと考えられるため、KPIを含めて一本化して記述した方が良いと考える。また、都市部とは遠距離にある荒尾市において、「二地域居住」が現実的に期待できるのかについては疑義がある。</p>	<p>「(ア) 移住希望者への情報提供の強化」と「(イ) 二地域居住や住み替えの支援」については、KPIは同じですが施策の内容は異なりますので、それぞれの施策に関係する事業の効果を検証し、KPIの進捗を測る予定です。ただし、移住者の中にはどちらの施策にも関係する方が想定されますので、その場合の施策ごとの効果の検証には留意したいと考えています。</p> <p>また、二地域居住については、全国的な視点ではシニア世代の退職やライフスタイルの多様化などにより今後希望者が拡大することも見込まれますが、実現可能性も含め、本市としてどのような地域や移住検討者をターゲットとすることが効果的なのかについては、「人口ビジョン」による転入者の分析や今後の移住促進策の効果を見ながら、引き続き検討します。</p>

No.	ご意見・ご提案の内容(一部要約)		ご意見に対する市の考え方
8	<p data-bbox="362 290 967 322">「(2) ふるさと定住の促進」に関するご意見</p> <p data-bbox="362 370 1137 481">ふるさと定住の促進については、若い世代の結婚、出産、子育てにより永続的に望めるもので、農業の担い手育成と農業の振興も共に進めることも大きな役割と考える。</p>		<p data-bbox="1169 370 1998 481">「ふるさと定住」には、結婚や雇用などの様々な要素が関わっていると考えています。新規就農者の支援や農業の振興などと連携しながら、推進していきます。</p>
9	P.22	<p data-bbox="362 552 1124 625">「3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の数値目標について</p> <p data-bbox="362 667 1137 740">合計特殊出生率が上がっているにも関わらず、年間出生数は値が低くなっている。数値のミスではないか。</p>	<p data-bbox="1169 667 1998 852">1人の女性が産む子どもの数が増加し、合計特殊出生率が上昇しても、今後、それ以上に若年女性の人口が減少していくことが見込まれていますので、目標とする年間出生数は減少しています。計画では、若年女性が減少しても、年間400人前後の出生数を維持していくことを目標としています。</p>
10	P.25	<p data-bbox="362 919 1137 1031">「4. 時代に合ったまちをつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域の連携を推進する」の数値目標について</p> <p data-bbox="362 1072 1137 1184">「暮らしやすいと感じている市民の割合63.4%」は低く、今回の計画実行により、荒尾市が地方創生の起点となることを切望する。</p>	<p data-bbox="1169 1072 1998 1152">市民の皆様の「暮らしに対する満足度」を高めるため、各政策を確実に推進していきます。</p>
11	P.26	<p data-bbox="362 1228 936 1260">「(イ) 交通ネットワーク」に関するご意見</p> <p data-bbox="362 1308 1137 1380">「高規格道路」は、正確な表記である「地域高規格道路」と記述すべきだ。</p>	<p data-bbox="1191 1308 1585 1340">ご意見のとおり、修正します。</p>

No.	ご意見・ご提案の内容(一部要約)		ご意見に対する市の考え方
12		<p><b>「(6) ふるさとづくりの推進」に関するご意見</b></p> <p>あなたのふるさととはとの問いに、誰しも、ふるさと自慢を行います。現在、荒尾市ではこれまでの歴史資産・文化資産(荒尾干潟や万田坑)はもとより、ふるさと荒尾で食した味は大きな記憶として残り続け、自分のふるさとの食文化として自慢できるものと確信する。そのためにも、農産物の生産が未来まであり続ける創生を希望する。</p>	<p>ふるさとに対する愛着や誇りを醸成する上で、食文化も重要なテーマの一つであると考えています。「食」と「農」の連携につきましても、農業の成長産業化を進める手段の一つとして推進していきます。</p>
13	P.30	<p><b>「(ア) 地域資源の環境保全」に関するご意見</b></p> <p>地域資源である荒尾干潟について、「保全」だけでなく「再生」も考える必要がある。荒尾干潟は独特の生態系を有しているが、海の環境が悪化しているため、佐賀県の有明海再生の取組を参考にし、県・市・民間団体・市民との協働の視点による再生を網羅する必要がある。</p>	<p>有明海の再生については、漁業振興の観点からも、アサリやノリの生息に適した漁場への改良やハトエイからの食害を防止する対策などを行ってきたところです。これらの活動や環境保全活動を積極的に行っていくことで荒尾干潟の再生に繋がると考えていますので、国や有明海沿岸の自治体とも連携しながら、今後も推進していきます。</p>
14		<p><b>「(ア) 地域資源の環境保全」に関するご意見</b></p> <p>豊かな自然環境づくりは、食の安全性、農産物の生産活動が不可欠であると共に、農業が担っている地域の多面的な機能をもって、自然環境維持、治水確保、防災に至るまでその役割は大きいといえることから、農業農村の活性化を要望する。</p>	<p>地域における農業の果たす多様な役割については十分に認識しており、今後も環境の保全には継続して取り組んでいくこととしています。豊かな自然環境づくりは、農業の振興のみならず、美しい景観の形成、ふるさとに対する愛着や誇りの醸成などにも繋がると考えていますので、複数の政策で連携しながら、農業の活性化を推進していきます。</p>

No.	ご意見・ご提案の内容(一部要約)		ご意見に対する市の考え方
15	P.40	<p>「4. 計画の効果検証と継続的な改善（PDCA サイクル）」に関するご意見</p> <p>市役所組織内部による経営システム（業績成果による統制）の導入・定着に向けた業績評価制度を構築する必要がある。KPI 設定に伴う内部検証（貢献度評価含む）と共に結果を公開資料とし、さらに総合計画審議会における外部検証の充実を図ることで、より効果的なマネジメントシステムになり得る。</p>	<p>計画の効果検証につきましては、市役所内部を政策ごとに分けた組織横断型の体制による内部検証に加え、総合計画審議会による外部検証など、より効果的なマネジメントシステムになるよう検討しています。検証資料についても基本的に公開し、毎年度適切に計画の見直しを行います。</p>
16	全般	<p>計画の推進に当たり、「実効性の担保」が大きな課題と考える。計画の進行状況を把握する上で、荒尾市の経常収支並びに域際収支の数値情報は必須の条件と言えるため、毎年算出し、公開することが望ましい。特に地域活性化、すなわち地域の持続性を測るための域際収支は、地域活性化の状態を全体的な視点で検証する上で重要な数値情報である。域際収支の状態変化を見つつ、新総合計画の政策・施策実行後のそれぞれの政策分野における変化の要因を分析し、定性・定量的改善に結びつけることが重要である。</p>	<p>「実効性の担保」については、PDCA サイクルを効果的に運用し、確実に目標を達成していけるよう計画を推進することとしています。また、域際収支などの客観的なデータについても、可能な限り収集し、政策検討の参考にしていきます。</p>